

水稻営農技術情報 (第1号)

令和8年2月
富山市農業協同組合
富山農林振興センター

<目指せ！ 1等米比率90%以上！！>

☆育苗計画の目安 5月15日頃を中心にコシヒカリの田植えを行うときの育苗日数は(播種から田植日まで)、19日間以内を目安にする。

消毒	浸種開始	播種	田植日	(育苗日数)	出穂期
4/7(火)	4/8(水)	4/19(日)	5/10(日)	(21日間)	7/30頃
4/16(木)	4/17(金)	4/26(日)	5/15(金)	(19日間)	8/2頃
4/25(土)	4/26(日)	5/3(日)	5/20(水)	(17日間)	8/7頃

・播種～田植日までの育苗日数が長い「老化苗」を移植すると初期の分けつ発生が減少して、穂数不足になり収量に影響します。
・育苗日数が長くならないよう、田植日から逆算した計画的な育苗を行い「老化苗」にならないよう注意しましょう！

☆育苗のスケジュールと作業内容

月日	作業	温度管理	作業管理のポイント	比重選液の作り方の目安																		
4/15	比重選	<p>水温 10～15℃ 確保 水温は低すぎないように</p>	①比重選で種籾を厳選 ・病気や発芽不揃いをしっかり予防する。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種籾</th> <th>比重</th> <th>硫安 (水10ℓに)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>うるち</td> <td>1.13</td> <td>2.5kg</td> </tr> <tr> <td>もち</td> <td>1.08</td> <td>1.5kg</td> </tr> </tbody> </table>	種籾	比重	硫安 (水10ℓに)	うるち	1.13	2.5kg	もち	1.08	1.5kg									
種籾	比重		硫安 (水10ℓに)																			
うるち	1.13	2.5kg																				
もち	1.08	1.5kg																				
4/16	種子消毒	②種子消毒を徹底し、病害の発生を予防 ・モミガードC水和剤200倍液で24時間浸漬する。 ※ 種子消毒水温10～15℃を維持！ ・消毒中は、種籾袋を2～3回上下に動かし、種子を完全に浸漬する。 ・消毒液の使用は1回限りとし、繰り返し使用しない。	必ず化学農薬で消毒 種子消毒は確実に！ 																			
4/17	浸種	③浸種は積算温度を十分に確保 $水温 \times 日数 = 積算温度 100 \sim 120^\circ C 程度$ ・催芽を揃えるため水温は10～15℃とし、籾容量の2倍の水に浸漬する。 ※ 浸種を開始した初日の水温確保が重要！(12～13℃) ・水交換(2日に1回)を行い、酸素不足を防ぐ。 ・浸種期間の後半は、必ず籾を確認し、芽が動いていたら浸種を終える。	早生・中生品種の浸種の目安 水温 浸種日数 10℃ → 10～12日間 15℃ → 7～8日間 浸種初日の水温が10℃未満だと出芽が不揃いになります。																			
4/25	催芽	育苗器温度 28～30℃ で 20～24時間	④芽が伸び過ぎないように、こまめにチェック！ ・催芽を揃えるため、1日2～3回袋を反転させる。 ・均一に播種するため、種籾の水切り(脱水)は十分に行う。(籾が手に付かない程度にまで陰干しを行う)	催芽の目安 ハト胸～芽長2mmまで すき間を作ることで、水をムラなくしみこませる！ 																		
4/26	播種	育苗器温度 30℃ で 2～3日間	⑤播種は「うす播き」乾籾 120g/箱が基本 ・加工床土は 床土：18mm 覆土：5mm ・軽量培土は 床土：15mm 覆土：8mm 乾籾 120g ・培土の充填深度は床土と覆土あわせて25mm程度とする。苗箱上部との隙間5mmとし、培土に水をムラなくしみこませ、給水量も増加し乾きにくくなる。	育苗箱のイメージ 																		
	出芽		⑥育苗器の温度は30℃が適温 <こまめに温度や出芽状況をチェック!> ・事前にサーモスタットの温度計を確認する。																			
4/29	搬出緑化	ハウス内温度 昼：25℃以下 夜：10℃以上 葉やけ注意！	⑦覆土上に芽が約1cm出た状態で搬出する。 ・搬出時に覆土を落ち着かせる程度に必ずかん水する！ ・原則、日中は搬出直後からでも換気を行う。 ・緑化したら、速やかに被覆資材をはずす。	日差しが強くてハウス内が高温になる場合は、搬出直後でも換気する！ 																		
5/1	硬化	ハウスの強風対策は万全に！ 強風が予想される場合は育苗ハウスを点検し、必要に応じて補強しましょう！	⑧ハウス内の温度が25℃以上にならないよう換気を徹底 かん水は朝にたっぷり！日中は床土の乾き具合に応じて行う。 ・荒天でない場合は、夜間もハウスを開け換気を行う！ 育苗期間中の病害対策	田植えの7～10日前には昼夜ともに換気する																		
5/15	田植え		<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象病害</th> <th>使用薬剤名</th> <th>希釈倍率</th> <th>散布量</th> <th>防除時期</th> <th>使用回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>白カビ、青カビ</td> <td>ダコレート水和剤</td> <td>500倍</td> <td>500cc/箱</td> <td>播種14日後まで</td> <td>2回以内</td> </tr> <tr> <td>ムレ苗 苗立枯病</td> <td>ナエファイン フロアブル</td> <td>1000倍</td> <td>500cc/箱</td> <td>播種時から緑化期</td> <td>2回以内</td> </tr> </tbody> </table>	対象病害	使用薬剤名	希釈倍率	散布量	防除時期	使用回数	白カビ、青カビ	ダコレート水和剤	500倍	500cc/箱	播種14日後まで	2回以内	ムレ苗 苗立枯病	ナエファイン フロアブル	1000倍	500cc/箱	播種時から緑化期	2回以内	
対象病害	使用薬剤名	希釈倍率	散布量	防除時期	使用回数																	
白カビ、青カビ	ダコレート水和剤	500倍	500cc/箱	播種14日後まで	2回以内																	
ムレ苗 苗立枯病	ナエファイン フロアブル	1000倍	500cc/箱	播種時から緑化期	2回以内																	

春の土づくり

～いざ土づくり！ 美味しい富山を届けよう！～

近年は登熟期間の異常高温により、「コシヒカリ」を中心に白未熟粒や胴割米が発生しています。高温等の気象変動に打ち勝つ米づくりには、強い稲体づくりが大切であり、その土台となる「根」を育てる「土づくり」が重要です。

土づくり資材や有機物の施用、深耕による「春の土づくり」を行い、地力の向上に努めましょう。

☆土づくり資材の施用

- ・「ケイ酸」は稲の茎葉を丈夫にし、葉を直立させる効果があるほか、病害虫に対する抵抗性を高めるなど収量品質の向上に効果の高い成分です。また、近年、発生が増えている「ごま葉枯病」は、ケイ酸分の他カリ、鉄分含量などの不足による地力の低下により発生が増加します。
- ・腐植が少ない砂質や砂壤土のほ場では、「発酵鶏ふん」などの有機物を積極的に施用し、土壌中の腐植やカリ、リン酸などの不足養分を補い、地力の維持や向上に努めましょう。
- ・土づくり資材の施用は継続することで効果が現れます。昨年の秋に施用できなかった場合は、耕起前に土づくり資材を確実に施用しましょう（春施用）。

主な土づくり資材の施用の目安（春施用）

資材名	施用量 (10a 当たり)	特性等
鶏果良好	60～100kg	ケイ酸、アルカリ分、遅効性カリ、リン酸、苦土などが一度に散布できます。
シンキョーライトP	60kg	含有成分のゼオライトは保肥力を高め、根張りを良くし、安定収量と品質向上につながります。
スーパーけいさん鉄	60～100kg	ケイ酸のほか、鉄分を多く含んだ資材で、アルカリ分も高く、土壌の酸度矯正につながります。 ごま葉枯病が多発するなど、鉄不足のほ場に適しています。
発酵鶏ふん	(春施用)※ 75～100kg	腐植含量を高め、カリ等も補給できます。

※「発酵鶏ふん」を春に施用する場合は、基肥を窒素成分で1～2kg/10a程度減肥する。

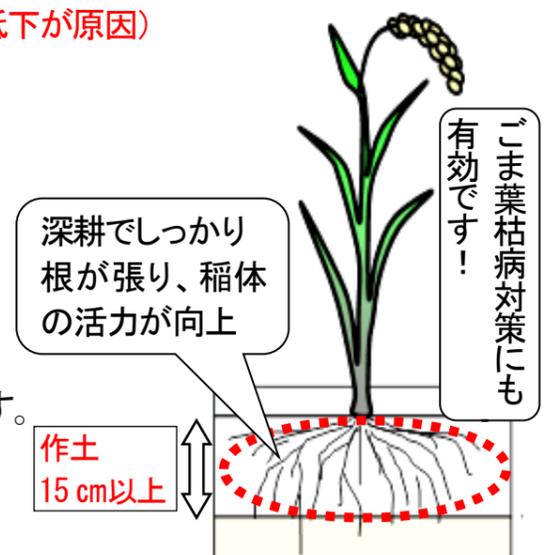
(例) Jコートコシヒカリ1号（窒素成分21%）で40kg/10a施用している場合は、30～35kg/10a程度に減肥する。



ごま葉枯病の病斑
(地力の低下が原因)

☆深耕の実施

- ・深耕によって作土層を確保すると、根圏が広がり根が十分に伸長します。深く伸びた根は収穫まで稲の活力を維持し、収量・品質の向上につながります。
- ・耕起の際は、トラクターの速度を落とし、ロータリーの回転数を遅くして、作土の深さ20cmを目標に、15cm以上の確保を目指しましょう。



令和8年 春の農作業安全運動 3月1日～5月31日

「農作業事故ゼロを目指して事故防止対策を徹底」

あなたも農作業中に「ヒヤリ」とした経験はないですか？
春の農繁期は農作業事故が発生しやすい季節です。
農場や道、用水路など危険箇所を事前に確認し、余裕をもった作業計画を立て、事故を未然に防止する対策を徹底しましょう。

春はトラクターの転落・転倒事故が多く発生します。



富山市農協ホームページで営農情報の提供を行っています
<http://www.ja-toyamashi.or.jp/jouhou/> こちらで検索！

JA 富山市 営農情報

検索

